

サッカーの試合で、選手がさわると色が変わる。こんなボールが出来ないかな？ 味方が触れると、赤になり、敵が触れると白に変色する。そんなボールだ。

サッカーでは、ボールがラインを割ると、どっちのチームの選手が最後に触ったかで、その後のボール取得権が決まる。それを明確にするのだ。いくら「オレは触っていない」と主張しても、ボールの色が証拠になる。

ゴールシーンでもしかり、オウゴンゴールなのか、はたまたイシマルの見事なゴールなのか、はつきりする。これは面白いと思うよ。試合中、コロコロと色が変わるボール。猫の目のように変わるってことで、こんな名前にしたらどうか。

「キヤットアイボール」

ここまで書いて、ボンとひざを打った。そんなボールは、すぐにも出来るじゃないか！ 少なくともテレビを見ている視聴者には、見せられるじゃないか！ そう！ 画面のボールにCGで色を付けるのだ。画面上どちらがタッチしているかは、数台のカメラでほぼはつきりしている。判断はコンピュータに任せられるんじゃないかな。

「え、そんな事出来るの？」と思っただでしょ。こんな映像見たことないかな？ オリンピックの水泳

のテレビ中継で、水面上に架空の世界記録ラインが動いていく。アメリカンフットボールで、10ヤード獲得ラインを画面上に黄色で架空に表示している。数年前から、テレビでは、そんな技術が使われている。サッカーだって、タッチラインやエンドラインの所にある企業の名前を書いたカンバンはCGで、実際のスタジアムには無いこともあるんだよ。

よし、テレビ屋さんには、まずは、やってもらおう！

「キヤットアイボール」

【朝日新聞・マリオン】

2007年1月31日掲載